

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	鈴木 とも恵
主な担当科目	声楽
2025年の 教育目標・授業に 臨む姿勢	個々が毎回のレッスンで達成感を感じられる指導と、声を出す楽しさを持てるレッスンを心掛ける。 そして、次回のレッスンまでの問題解決と練習方法を指導をする。
2025年の教育に関 する自己評価	体調管理、モチベーションの高さ、練習時間の確保等によって、成長の相違がある。 学年があがるにつれて、声を出す事だけでなく、オペラ全体を通した内容や、イタリア語にも興味が広がり意欲的な取り組みが感じられた。
2025年のFD活動 に関する自己評価	FD研修会では他の部会や非常勤の先生方と学生の問題や授業の運用上の問題を共有できる貴重な機会である。問題点を共有し、解決に向けて方向性を導き出せた。
授業改善のために 取り入れた研修内容	FDでは特に、留学生とのコミュニケーションの取り方について問題提起される意見が多かった様に思われた。 留学生が益々増える傾向にあるが、具体的、授業が円滑に進めていける様、議論を継続する必要がある。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1731 教員名:鈴木 とも恵

【海外研修Ⅰ ピアノ演奏家Ⅰ・声楽(大)】

1)アンケート結果に対する所見

全体として良好な結果であり、特に授業内容や研修の目的については学生に理解されていたと受け止めている。総合評価も 4.00 であった。一方、授業時間外の学修時間は平均 55 分であったため、研修に向けた事前準備については、もう少し働きかけが必要だと感じている。

2)要望への対応・改善方策

海外での研修は、普段とは異なる環境で学ぶ機会でもあるため、出発前に現地で何を学ぶのかを学生とより具体的に確認していきたい。また、帰国後にも研修で得たことを振り返る機会を設け、その後の実技や学修に生かせるようにしたい。

3)今後の課題

限られた研修期間の中で、学生一人ひとりが目的を持って学べるようにすることが今後の課題である。事前の準備をより丁寧に行うとともに、現地で得た経験がその後の学びにどうつながったのかについても確認していきたい。

【音楽教養演習Ⅰ】

1)アンケート結果に対する所見

全体としては概ね良好な結果であったが、教育到達目標の達成や授業のわかりやすさについては、さらに工夫が必要であると感じている。また、授業時間外の学修時間が全体平均より少ない点についても、今後の授業の中で意識していきたい。

2)要望への対応・改善方策

授業の中で扱う内容について、学生が目的をつかみやすいよう説明の仕方を見直したい。特に、授業で学んだことを各自が振り返り、次の学修につなげられるような進め方を心がける。

3)今後の課題

学生によって理解度や取り組み方に差があるため、授業中の反応も見ながら進めていく必要があると考える。学生が受け身にならず、学生自身が考えながら取り組める授業にしていくことが今後の課題である。

【卒業研究 音楽教養(大)】

1)アンケート結果に対する所見

シラバスの理解、授業内容、授業実施、興味・関心、教育到達目標、総合満足度について、いずれも高い評価が得られた。特に教育到達目標の達成および総合的な満足度が高く、授業の目的や内容が学生に十分理解されていると考える。一方、「授業をわかりやすくするための工夫」については、他の項目と比較して改善の余地がある。

2)要望への対応・改善方策

卒業研究という科目の性格を踏まえ、学生それぞれの研究テーマや進捗状況に応じた個別的な指導を継続する。また、研究の進め方や課題をより明確に示し、学生が見通しを持って取り組めるよう授業内容の提示方法を工夫する。

3)今後の課題

学生が主体的に研究を進める力をさらに高められるよう、研究計画、資料収集、考察、成果発表までの過程を段階的に確認する指導を充実させることが課題である。

【実技(声楽)】

1)アンケート結果に対する所見

総合的満足度は 4.00 で、回答者全員が「このレッスンを受講してよかった」と回答している。また、シラバスに基づく授業内容、レッスンへの興味・関心、わかりやすくするための工夫についても、すべて 4.00 と高い評価を得た。教育到達目標の達成についても 3.67 であり、概ね良好な結果であった。さらに、回答者全員が 1 回のレッスンにつき 120 分以上の時間外学修を行っており、主体的に実技学修に取り組んでいることがうかがえる。

2)要望への対応・改善方策

アンケート結果から、レッスン内容や指導方法については高い評価が得られているため、現在の個々の学生の習熟度や課題に応じた指導を継続する。その上で、学生自身が教育到達目標に対する達成状況をより具体的に認識できるよう、レッスンの中で課題や到達度を適宜確認し、学修成果を実感できる指導を行う。

3)今後の課題

専門技能・知識、文化・教養、自己表現力、コミュニケーション能力、実践力について高い学修成果が示されている一方、目標達成成果については 66.7%となっている。今後は声楽の専門的な技術・表現力の向上に加え、さまざまな時代・言語・文化的背景を持つ声楽作品への理解を深めることで、より幅広い音楽的視野を育成していくことを課題とする。

以 上